

人形浄瑠璃は、太夫・三味線・人形操りの三つの技芸が結びついて誕生し、江戸時代以降、歌舞伎と人気を競い合った伝統演劇です。

淡路島には、全盛期40余りの人形座があり、全国を巡業したことから、各地に人形浄瑠璃を根付かせています。戦後、淡路人形浄瑠璃は衰退の一途をたどりましたが、関係者の尽力により「淡路人形座」が設立され、昭和51年には国の重要無形民俗文化財の指定を受けるとともに、今日まで淡路島の伝統芸能として伝承されております。

本公演では、駒沢次郎左衛門(阿曾次郎)と深雪(朝顔)の恋のすれ違いを描いた『生写朝顔日記』を上演します。

淡路人形座TikTok  
@awajiningyoza



## 【演目あらすじ】

### えびすまい 戎舞

戎さまが、釣竿をかついでやってきました。庄屋さんはお神酒を出します。盃を飲み干した戎さまは、自分の生まれや福の神であることを話しながら舞い始めます。海の幸、山の幸を前に、みんなの願いをかなえようと、お神酒を飲み、幸せを運んできます。酔った戎さまは、船に乗り、沖に出て、大きな鯛を釣り、メデタシ、メデタシと舞い納めるのでした。太鼓のリズムに合わせ、戎さまが楽しく舞うこの戎舞には、おらかな心を持ち、えびす顔でプラス思考に生きるという幸せの原点がこめられています。



### いきうつしあさがおにつき 生写朝顔日記

やどやの段 おおいがわの段 みゆきせきすけみちゆきの段  
宿屋の段、大井川の段、深雪関助道行の段

深雪は宇治川の蚩狩りで阿曾次郎を見初めますが、阿曾次郎の鎌倉への赴任が決まり、離ればなれになってしまいます。その後、駒沢次郎左衛門との縁談が起きますが、深雪は阿曾次郎の改名後の名とも知らず、家出し、流浪の末に目を泣き潰し朝顔という名の盲目の芸人として宿場をさすらっているのです。



駒沢次郎左衛門が悪人の岩代多喜太と帰国の途中、戎屋徳右衛門の宿に泊まっているときのこと、以前深雪に送った朝顔の歌を見つけます。徳右衛門に話を聞くうちに朝顔が深雪のことではないかと駒沢次郎左衛門の心は騒ぎ、朝顔を呼ぶところから今回の公演が始まります。

果たして、深雪と駒沢次郎左衛門のすれ違いの恋の行方や如何に…

# 淡路人形座

2024年、60周年を迎えました。

淡路島において淡路人形浄瑠璃の常設公演を行うほかコラボ公演など特別公演も企画しております。淡路人形座へ是非お越しください。

開演時間 10:00～、11:10～  
13:30～、15:00～

所要時間 約45分

休館日 毎週水曜日(臨時休館有り)

住所 兵庫県南あわじ市  
福良甲1528-1地先

電話番号 0799-52-0260

運営会社 (株)うずのくに南あわじ

この島で  
これからも



淡路人形座HP

## 物販情報

公演当日に、阪急 中ホール  
ホワイエにて販売予定



※写真はイメージです

淡路島には世界遺産を目指す「鳴門海峡の渦潮」をはじめ、たくさんの観光資源があります。古事記の神話で、日本で最初に造られたとされる「日本のはじまり淡路島」へ是非お越しください。

